

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371100716
法人名	株式会社フレンズハウス
事業所名	グループホーム フレンズハウス七番町
訪問調査日	平成20年5月8日
評価確定日	平成20年6月19日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2371100716
法人名	株式会社フレンズハウス
事業所名	グループホーム フレンズハウス七番町
所在地	名古屋市港区七番町五丁目12番地 (電話) 052-661-9933

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月8日	評価確定日	平成20年6月19日

【情報提供票より】(平成20年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	7人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(172,500 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年4月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81 歳	最低	60 歳	最高	93 歳
協力医療機関名	医療法人まいさ会 近藤クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町内会に入会しており、地域に向けて「フレンドニュース」を回覧板で回し行事の参加を呼びかけている。また、ホーム玄関に行事予定を掲示し自由に訪問してもらえるようにオープンにしている。民生委員の方が独居のお年寄りと一緒にホームにあそびにきてくれる。散歩の時には入居者と職員が声をかけ、おしゃべりを楽しんでいる。また、ホーム長が安全確認のため独居の方の自宅を訪問するなど、地域と支え、支えられる関係を大切にしている。ホームにはデイサービスセンターが併設されており、設備の相互利用をしている。ADL(日常生活動作)の維持、認知症の進行を防ぐために、訪問リハビリを週2回受けている。ホームで猫「なな」を飼っており、入居者の癒しに一躍かっている。重度化した場合、本人や家族が希望した時は看取りを行っている。火災、地震に備え備蓄品の用意もされ、防災訓練を実施し入居者の安全に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、ホームを開放的にし地域との会話の場所を設け、交流について意識を変えるために管理者と職員で話し合いがされた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価について、ガイドライン(厚生労働省より発行)を印刷し、自己評価と一緒に付けて、職員一人ひとりに説明、手渡した。難しいところは職員同士話し合いまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2カ月に1回開催されておりメンバーは福祉事業関係者、町内会長、民生委員、入居者となっている。会議ではホームの行事報告、地域の独居の方の状況、入居などの説明がされている。議事録はホームに掲示されており、家族や職員は自由に見ることができる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	事務所に意見箱が設置されているが利用されていない。家族は直接、職員や管理者に意見、要望を伝えることが多い。法人で年1回家族会を開催し各事業所の計画などが報告され、話し合いの場が設けられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、「フレンドニュース」を回覧板で毎月回してもらい、行事などを紹介し参加を呼びかけている。以前、事業ゴミで出していた資源を町内に出すことによりステーションで地域の方と話すことが多くなり、交流の場となっている。また、玄関の前にも行事案内を掲示し来訪者を呼びかけている。地域の盆踊りや近隣の小学校の運動会に招待され全員が参加した。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根をはる七番町、皆が集う憩いの場」をホーム独自の理念とし、地域とのふれあいを大切にしたいとの思いでつくられた。地域の関わり合いも積極的に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念とホーム独自の理念はリビングに掲示されている。職員には、入社時に説明されている。理念を振り返る機会は特に設けていないが、常に入居者の立場に立って、ケアすることを心がけている。地域とホームが昔の下町のように大家族のようにオープンな付き合いをしていけたらと思いを寄せている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、「フレンズニュース」を回覧板で毎月回してもらい、行事などを紹介し参加を呼びかけている。以前、事業ゴミで出していた資源を町内に出すことによりステーションで地域の方と話すことが多くなり、交流の場となっている。また、玄関の前にも行事案内を掲示し来訪者を呼びかけている。地域の盆踊りや近隣の小学校の運動会に招待され全員が参加した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点については、管理者と職員で話し合いがされた。前回の評価をいつでも確認できるよう掲示している。今回の評価について、ガイドライン（厚生労働省より発行）を印刷し、自己評価と一緒に付けて、職員一人ひとりに説明、手渡した。難しいところは職員同士話し合いまとめた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2カ月に1回開催されておりメンバーは福祉事業関係者、町内会長、民生委員、入居者となっている。会議ではホームの行事報告、地域の独居の方の状況、入居などの説明がされている。議事録はホームに掲示されており、家族や職員は自由に見ることができる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>港区介護保険事業者連絡会に加入しており、担当者とは話し合いの機会を設けている。また、介護保険課や保護係と密に連絡を取り、ホームの状況を説明している。区役所の担当者の訪問もある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問は多く、訪問時に入居者の状況を説明し金銭出納帳を見せ確認をしてもらっている。「フレンズ通信」は隔月に作成され、家族にはその都度コメントを付け、写真と共に郵送される。健康状態に変化が生じた場合はその都度、電話で連絡される。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事務所前に意見箱が設置されているが利用されていない。家族は直接、職員や管理者に意見、要望を伝えることが多い。法人で年1回家族会を開催し各事業所の計画などが報告され、話し合いの場が設けられている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はなく、ユニット毎に職員は固定されている。居室には担当者が決められ、馴染みの職員が支援するようにしている。退職者があった場合は、家族や入居者に不安を感じさせないよう間近に伝えるなど配慮している。また、離職防止としてストレス解消法の勉強会（ストレス軽減）を開催し、一人で悩みなどを抱え込まないように日々声かけをするよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時、日中は16時間と夜勤は8時間の現場研修を行なっている。年2回、自己評価を実施し個々の職員のレベルアップに繋げるようにしている。また、資格取得にも力を入れている。外部研修は、正職員、パート職員の全員を対象としている。交代で参加し、資料をホームへ持ち帰り、ミーティングなどで情報を共有しているが、積極的な参加までには至っていない。		7月に同法人の施設で特別養護老人ホームのオープンが予定されており、施設にて2カ月に1回、研修や勉強会を予定していることから実行に向けた取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の介護事業者会が開催する介護フェアには、家族にも参加を呼びかけ、入居者、職員が全員参加した。また、2カ月に1回の事業者会の会合には、管理者が出席し同業者との交流を行なっている。法人合同で、1泊旅行や季節に応じた餅つき、バーベキューなどの行事が行なわれ、交流に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学、体験入居を実施している。入居に当たっては、事前に自宅を訪問し、家族や本人の希望に添えるよう十分に話し合いがされ、信頼関係を築き不安のないよう努めている。状況を把握し、本人に最適のサービスを提供できるよう他の施設案内なども含め説明されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の様子は個別に記録し申し送りなどで情報を共有している。入居者の得意なことや好きなことをレクリエーションに取り入れている。料理の味付けを見てもらったり、洗濯物の干し方、たたみ方を教えてもらったりアドバイスをもらっている。職員が汗をかいて仕事をしていると、「大丈夫」「休みなさい」など労いの言葉を入居者からかけてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者とコミュニケーションを取り言動や表情から希望や意向を汲み取り、入居者の意思を尊重し支援している。意思表示の困難な方はバックグラウンドシートを家族に記入してもらい参考にしている。把握された情報は記録され、職員全員で共有されている。天気の良い日は屋上に上がり、入居者と職員と一緒にティータイムを楽しんでいる。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族からの意見、要望を聞き、入居者の立場に立ち快適な生活ができるよう、介護計画の作成に取り組んでいる。日々の生活の中で気づいたことを申し送りノートに記録し、情報の共有に努めている。また、一人ひとり7領域のケアチェック表で状態を把握し、問題点を明らかにしている。介護計画はケアチェック表を基に、ミーティングにおいて職員で検討し、本人や家族の要望を反映したものになっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ホームは、居室担当制を行っており、職員は日々の申し送りノートで入居者の状態を把握している。個別に「気になるチェック表」に居室担当者だけでなく、職員全員での自由記載として、小さな変化も見逃さないよう努めている。本人や家族と話し合いを行い、その意向を汲み取りながら、3カ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、変化が生じた時には、その都度介護計画の変更を行い、職員全員で確認し現状に即した新たな介護計画にしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療提携体制加算を受けており、近くの内科医院と契約し、毎週訪問診療を行なっている。民生委員から、地域の独居者について相談を受けており、時々訪問をして話しをしながら状況の把握に努め、民生委員に報告している。入居者が入院した時は、医療機関との連携を密にし早期退院に向け支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム協力医として内科医と歯科医と契約し、必要な時には通院支援を行っている。協力医以外への受診は、基本的に家族が行うことにしており、その情報を家族より受け、協力医へ報告し、ファイルして入居者の健康状態の把握に努めている。また、訪問リハビリが週2回あり、半数の入居者が利用して歩行訓練やマッサージを受けており、入居者や家族の通院負担が軽減されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化の指針として、常時医療的管理の必要が無く、本人や家族が希望する時のみ看取りを行うとしている。また、入居基準として入居者の心身の状態に専門的治療、看護を常時必要としないことを条件とし、入居時に本人や家族の同意を得て、施設など利用申し込みを勧めている。管理者は協力医や職員と終末ケアについて話し合いをし、情報を共有している。また、緊急時の延命処置について、本人と家族の考えや要望を聞き、記録しファイルしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の入社時にプライバシーの保護、個人情報漏洩防止について説明し、誓約書を交わし徹底を図っている。日々の生活の中で、職員はさりげない声かけで本人の誇りを損なうことのないよう配慮している。入居者の記録の記載は、フロアで見守りをしながら記入しており、家族の来訪時には見られている。書類の保管は、倉庫内に収納し鍵は事務局で管理して、情報漏洩の防止に取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活パターンを把握し、自分でできることは行ってもらい、職員は声かけや見守りを行なっている。一人で孤立しないように皆と一緒に時間を共有し支援している。誕生会には手作りのケーキを作ったり、外食の日には、お酒を飲まれる方もいる。入居者同士テレビを見たり話をしたり、自由に過ごされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、3食とも入居者と職員と一緒に摂り、さりげなく声かけをして、話をする機会になっている。献立は、入居者の希望を聞きながら、1カ月毎に職員と一緒に考え、季節感のある食事になっている。調理は、入居者に教えてもらったり、味見、食器洗いなど、できることをやってもらい、誕生会のケーキやおやつを手作りしている。また、毎月お寿司の日があり食事を楽しむ配慮がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能である。時間帯については、ホームの浴室にリフトが設置されており、併設のデイサービスセンターが午前を利用する場合は、午後の入浴となるが、それ以外は時間の決まりはない。毎日入浴チェック表を記入しており、週2~4回入浴している。入浴を拒否される方には家族の協力を得ながらシャワー浴、足浴、清拭などで対応して清潔の保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で特別に役割は決めていないが、入居者のできること、できないこと、得意なこと、趣味などを把握している。居室やフロアの清掃は、職員の声かけで全員で行っている。日々の外出の他、花見や花祭りなど、入居者の希望に合わせて実施している。行事に参加しない人には、室内で手芸やパズルなど好きなことをしている。季節的に外出が困難な時は、おやつ作りやスイカ割など、室内レクリエーションを行い自室にこもらない支援を心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調に合わせ近くを散歩し、ペットショップで動物を触れたり、店の人と言葉を交わすなど地域の人達と関わりを持つ場となっている。月2回の予定された外出には、お小遣いを持って、花や菓子など好きな物を買ひ、喫茶店に行きお茶を飲むなど、可能な限り外出支援をして、気分転換を図るようにしている。また、年1回家族も参加しての1泊旅行があり、温泉を楽しんでいる様子がフロアの写真からうかがえる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に鍵をかけておらず、玄関は常時開けてあり出入りは自由にできる。夜間と屋上へのドアは、防犯上および安全対策上施錠している。新規入居者には職員が常に見守り、チャイムなどは使用していない。一人で外出する方は現在はいないが、外出し道に迷った場合は、緊急時マニュアルで対応することとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回防災会議を開催し、訓練として「夜間を想定した火災訓練」、「不審者防犯訓練」、「地震防災訓練」を実施している。近隣住民などの参加や声かけなどは行っていない。防火設備のスプリンクラーは設置されていないが、その他は完備しており、点検も実施している。防災用品は備蓄されており、保管場所を全職員が把握している。		職員の防災意識は高いので今後、防災会議、訓練に地域住民および警察署などへ声をかけると共に、防災、防犯などの講習会やアドバイスを依頼するなどの取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定を行い記録している。協力医の応診時にチェックを受けた結果、増加傾向にあるとの指摘があった。そのため、個別に1日の摂取量を把握し、食事量を加減している。水分摂取量は、食事を含み1日1を目安に水分、食事量チェック表に記録している。飲み込み困難な入居者には、トロミ食が用意され、健康に配慮した、食事の取り組みがされている。		法人内に栄養士がいることから献立のチェックを受けるなど、体重増加防止のため質や量、バランスなどに配慮したより良い献立作りに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアには、食卓テーブルと椅子、テレビの近くにソファが配置され、畳コーナーが用意されて家庭的な雰囲気づくりがされている。壁際には観葉植物が置かれ、誕生会や行事の写真が手作り作品と共に飾られて、ホームでの生活を楽しんでいる様子がうかがえる。室内の照明、換気、室温に配慮されており、湿度は50%を目安に快適な空間づくりに努めている。また、新聞や計算ドリルが置いてあり、壁にはカレンダー、行事予定、献立表などが掲示され、入居者が落ち着いて過ごせるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、名前札と自分で作った作品を飾り、特徴をつくり入居者にとって良い目印となっている。それぞれ自宅で使い慣れたテレビ、ラジカセ、椅子、タンス、ベッド、仏壇など生活用品が持ち込まれている。また、カーテンも好みに合わせた物をかけ、手作りの作品や写真などを飾り、本人のプライベート空間として安心して、過ごせる居室づくりがされている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。